

2021年8月24日

電通、新型コロナウイルス日米定点生活者意識調査第16回目を実施

—1日当たりの感染者数が1万人を超え、過去の緊急事態宣言時よりも自粛が広がる。出社・日常の買い物活動に変更はない。ワクチンへの信頼度は上昇—

株式会社電通（本社：東京都港区、社長：五十嵐 博）は、2021年7月下旬、全国20～69歳の男女1,000名を対象に「COVID-19生活者意識ナビゲーター（第16回日米比較編）」を実施しました。

本調査は、電通グループの海外事業を統括する電通インターナショナル社（旧：電通イージス・ネットワーク社）の米国拠点Dentsu U.S.が米国において、新型コロナウイルスによる生活者意識の変化を20年3月下旬から21年7月にかけて21回にわたり調査したものとほぼ同じ内容を日本国内でも調査したものです。前回の6月下旬に引き続き、日本での第16回目の調査を7月下旬（東京オリンピックが開催される中、国内の1日当たりの新規感染者数が1万人を突破し、東京・沖縄で緊急事態宣言の延長が決定した時期）に行いました。比較対象である米国の第21回目は7月中旬に調査を行いました。

第16回調査の主なファインディングスは以下の通りです。なお、一部の調査項目は情勢を鑑みながら追加・変更を行っているため、設問によっては比較可能な項目がある回との比較を行っております。

<主なファインディングス>

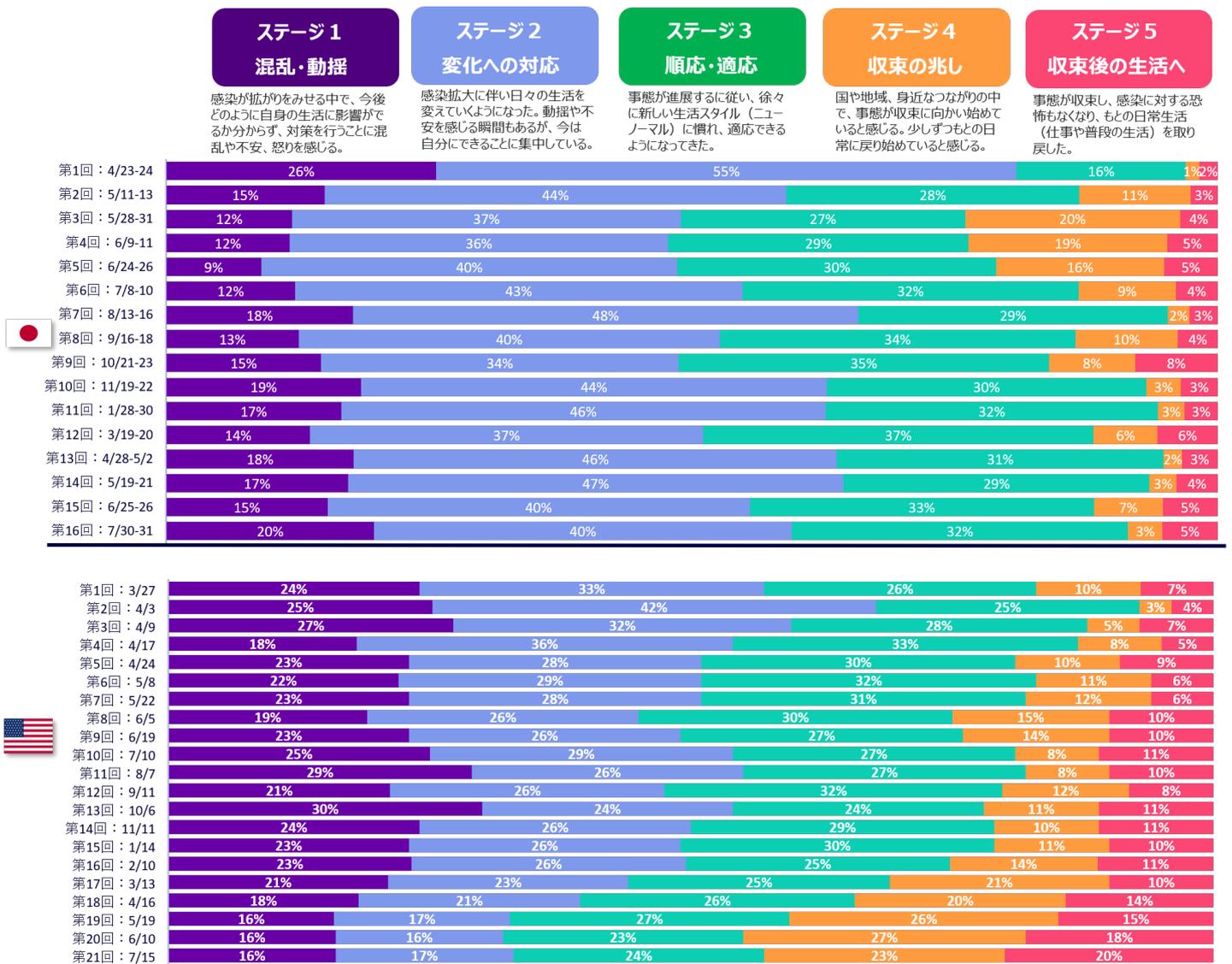
- 生活者の心理ステージは、ステージ5「収束後の生活へ」が20%と過去最高だった米国に対し、日本はステージ1「混乱・動揺」が20%と過去2番目に高い水準となり、日米の差が広がる結果となった。日本ではステージ3「順応・適応」以降が40%と前回より5ポイント低下し、心理ステージが悪化している。
- コロナ禍の状況認識は、日本では「感染は悪化していて、手に負えない状況だと思う」が47%となり、前回から22ポイント増加。米国でも「感染は悪化していて、手に負えない状況だと思う」が15%となり、前回よりも4ポイント増加。
- 日本では過去の緊急事態宣言時と比べ、自粛状況は複数の項目で「これまでよりも自粛している」「変わらない」が9割。「これまでよりも自粛していない」は全項目で5%以下。「出社」「日常の買い物」は7割の人が「今までの宣言時と変わらない」とした。
- 日本におけるワクチンの効果や安全性に対する信用度は「完全に信用する」「ある程度は信用する」の合計が68%と過去最多となった。
- 外出時に感じる危険性は日米で大きく乖離。日本では、外出することに「危険を感じる」が前回より5ポイント増加し75%に。

<詳細結果>

1. 生活者の心理ステージは、ステージ5「収束後の生活へ」が20%と過去最高だった米国に対し、日本はステージ1「混乱・動揺」が20%と過去2番目に高い水準となり、日米の差が広がる結果となった。日本ではステージ3「順応・適応」以降が40%と前回より5ポイント低下し、心理ステージが悪化している。

- ・ 新型コロナウイルスの影響下における生活者の心理変容を5つのステージで捉えて傾向を把握。
- ・ ステージ3以降が67%を占める米国に対し、日本ではステージ3以降は40%にとどまっている。

(図表1) 生活者の心理ステージ



質問：新型コロナウイルスの感染拡大のような公衆衛生上の危機に面した時、人々の気持ちの変化にはいくつかの「ステージ」があると言われていています。今回の新型コロナウイルスの感染拡大があなたの日常生活にどのような影響を与えたかを考えていただき、現在のあなたの状況に最も当てはまるものを1つお選びください。

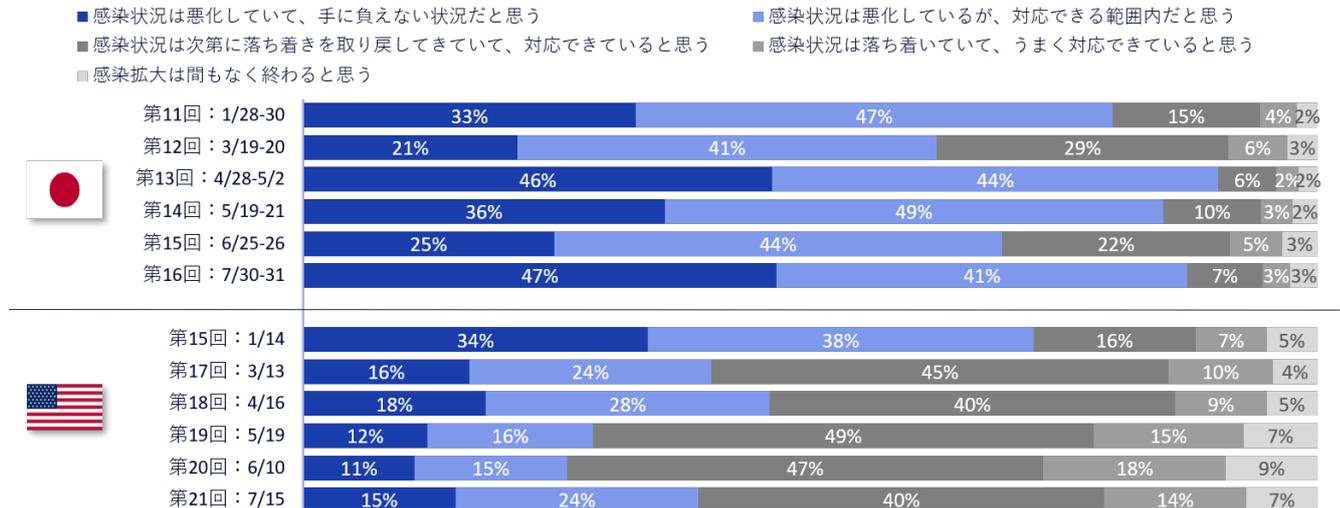
出典：社会心理学の「キューブラ=ロスモデル」から着想を得て、COVID-19での心理変容に置き換えて定義。ステージ文言などは電通オリジナルで作成。

2. コロナ禍の状況認識は、日本では「感染は悪化していて、手に負えない状況だと思う」が47%となり、前回から22ポイント増加。米国でも「感染は悪化していて、手に負えない状況だと思う」が15%となり、前回よりも4ポイント増加。

- 米国では「感染は次第に落ち着きを取り戻してきていて、対応できていると思う」が40%と選択肢の中で最も回答が多かったのに対して、日本では7%と少なく、日米に大きな差がみられる。

(図表2) コロナ禍の状況認識

コロナ禍の状況認識



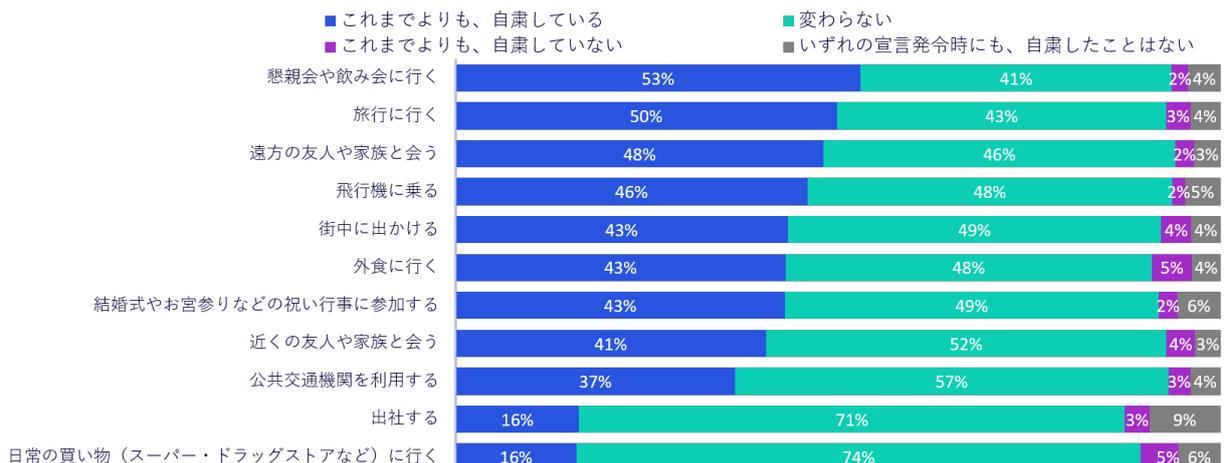
質問：これまでの国内の新型コロナウイルスの感染状況の経過について、あなたはどのように感じますか？以下のうち、最も当てはまるものをお選びください。

3. 日本では過去の緊急事態宣言時と比べ、自粛状況は複数の項目で「これまでよりも自粛している」「変わらない」が9割。「これまでよりも自粛していない」は全項目で5%以下。「出社」「日常の買い物」は7割の人が「今までの宣言時と変わらない」とした。

- 1~3回目までの緊急事態宣言発令時に比べて多くの項目において、4~5割が「これまでよりも自粛している」と回答。「新規感染者数1万人越え」という大幅な感染者数増加に危機感を高めているものと考えられる。

(図表3) 各活動の自粛状況

各活動の自粛状況

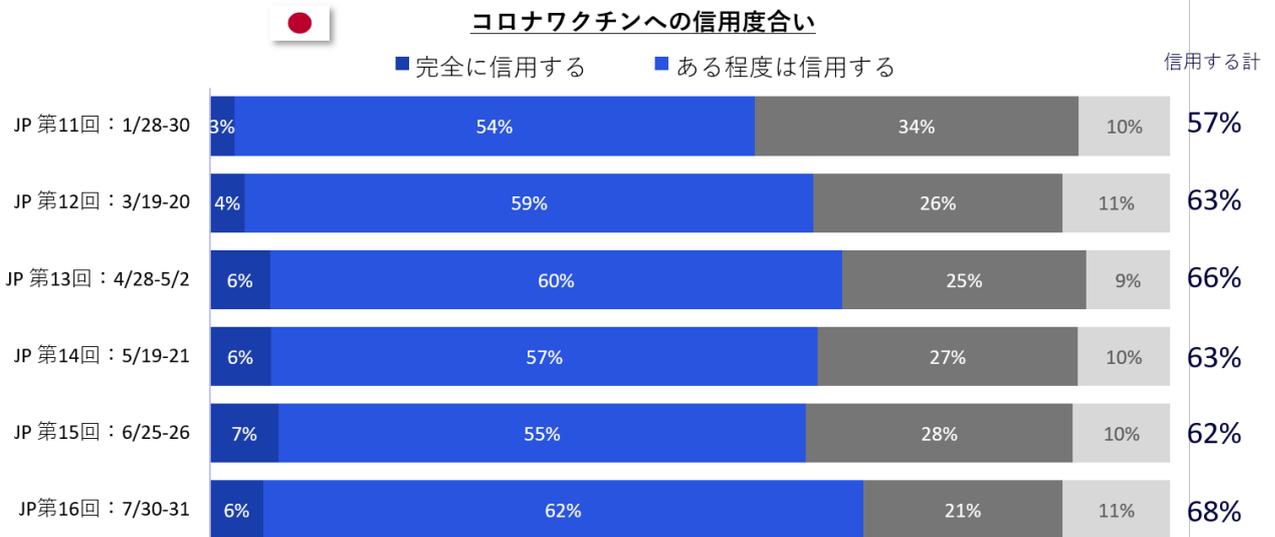


質問：現在、4度目の緊急事態宣言が発令されていますが、3回目までの宣言発令時と比べ、以下の項目の自粛状況はどうなりましたか？※対象地域ではない方も、それぞれについてお答えください。

4. 日本におけるワクチンの効果や安全性に対する信用度は「完全に信用する」「ある程度は信用する」の合計が68%と過去最多となった。

- 伸び止まりを見せていたワクチンへの信用度は、前回+6ポイントの過去最高の計68%となった。

(図表4) コロナワクチンへの信用度合い

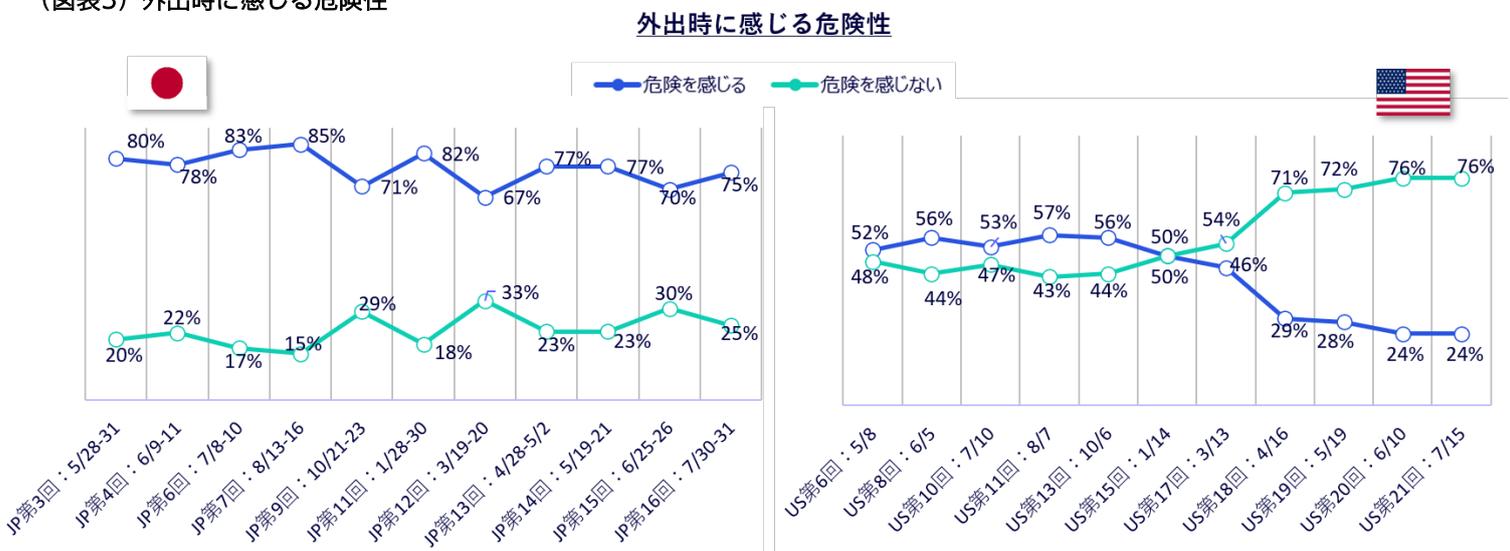


質問：新型コロナウイルスのワクチンについて、あなたはどの程度、効果や安全性を「信用」しますか？新型コロナウイルスワクチンについて知っていること・情報を踏まえ、ご回答ください。

5. 外出時に感じる危険性は日米で大きく乖離。日本では、外出することに「危険を感じる」が前回より5ポイント増加し75%に。

- 米国では76%が「外出時に危険を感じない」と回答しており、日米で大きな差がみられる。

(図表5) 外出時に感じる危険性



質問：現在、外出することについてどのくらい心配していますか？

<日本での調査概要>

タイトル： COVID-19生活者意識ナビゲーター

調査手法： インターネット調査

調査時期： 第1回：2020年4月23～24日、
第3回：2020年5月28～31日、
第5回：2020年6月24～26日、
第7回：2020年8月13～16日、
第9回：2020年10月21～23日、
第11回：2021年1月28～30日、
第13回：2021年4月28日～5月2日、
第15回：2021年6月25日～5月26日、

第2回：2020年5月11～13日
第4回：2020年6月9～11日
第6回：2020年7月8～10日
第8回：2020年9月16～18日
第10回：2020年11月19～22日
第12回：2021年3月19～20日
第14回：2021年5月19日～5月21日
第16回：2021年7月30日～7月31日

エリア： 全国

対象者： 全国20～69歳の男女1,000名

調査内容： 新型コロナウイルス感染症に対する心理ステージ、生活行動、企業への期待など

調査実施： 株式会社電通

<米国での調査概要>

タイトル： COVID Crisis Navigator

調査手法： インターネット調査

調査時期： 第1回：2020年3月27～29日、
第3回：2020年4月9～12日、
第5回：2020年4月24日、
第7回：2020年5月22日、
第9回：2020年6月19日、
第11回：2020年8月7日、
第13回：2020年10月6日、
第15回：2021年1月14日、
第17回：2021年3月12日、
第19回：2021年5月19日
第21回：2021年7月15日

第2回：2020年4月3～4日
第4回：2020年4月17～18日
第6回：2020年5月8日
第8回：2020年6月5日
第10回：2020年7月10日
第12回：2020年9月11日
第14回：2020年11月11日
第16回：2021年2月10日
第18回：2021年4月16日
第20回：2021年6月10日

エリア： 全米

対象者： 全米18～64歳の男女1,000名

調査内容： 新型コロナウイルス感染症に対する心理ステージ、生活行動、企業への期待など

調査実施： Dentsu U.S.

<参考：米国と日本における新型コロナウイルス関連トピックと調査実施タイミング>

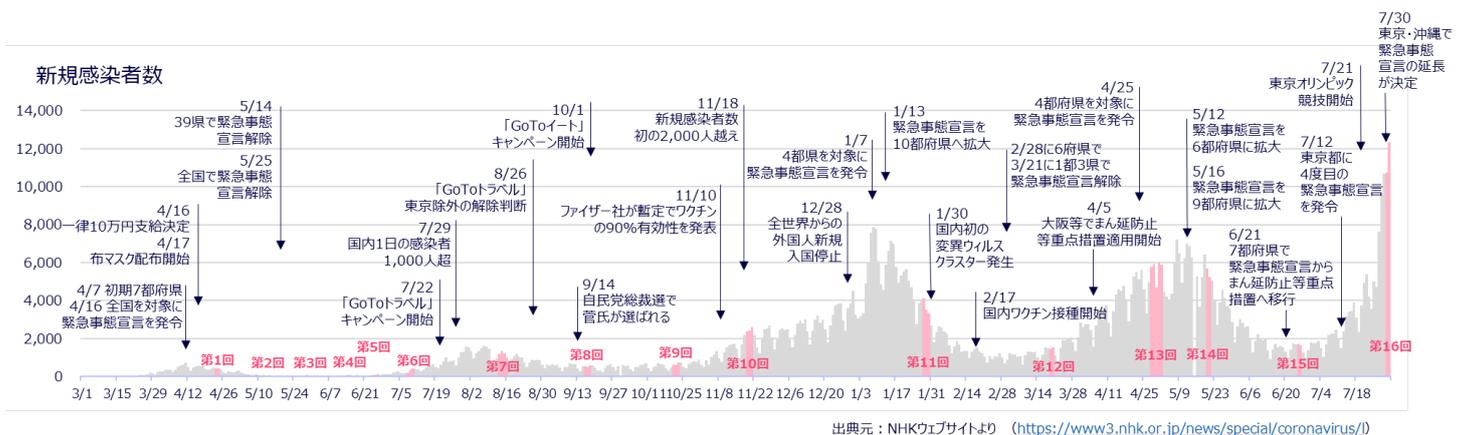
【米国】

- 第1回：アメリカにおける感染者数が世界最多を記録した直後に実施
- 第2回：失業保険申請数が増加するなど景気経済への影響が顕在化してきた中での実施
- 第3回：新規感染者数や死者数が継続して高く推移している中での実施
- 第4回：事態が長期化している中での実施
- 第5回：一部の州での経済活動の再開などが報じられ始めたタイミングで実施
- 第6回：多くの州で一部の経済活動を部分的に再開した中での調査
- 第7回：50の州全てで経済が再開。一方、失業率が高い水準のタイミングでの調査
- 第8回：人種差別への抗議運動が広がり、コロナでも多数がデモに集結していた中での調査
- 第9回：複数の州で新規感染者数の最多記録が更新され、第二波への懸念が高まる中での調査
- 第10回：累計感染者数が300万人を超え、依然として失業率が高止まりしている時期に調査
- 第11回：7月中旬～後半にかけて新規感染者数が7万人を超えピークを迎えた後、落ち着きを見せ始めた中での調査
- 第12回：コロナ感染拡大から6カ月、感染拡大はまだ落ちつかず、大統領選挙の話題が増えてきている中での調査
- 第13回：大統領選挙まで1か月。中西部での感染が拡大。NYでは一部地域で再封鎖実施も報道される中での調査
- 第14回：大統領選挙が行われた。1日の感染者数が10万人を突破し、感染者数が急激に拡大している中での調査
- 第15回：ワクチン接種が開始されるも、新規感染者数が30万人突破。変異株の感染拡大も懸念される中での調査
- 第16回：バイデン政権によりワクチン接種が加速・本格化。1日あたり新規感染者数が10万人を下回る中での調査
- 第17回：ワクチン接種進むも、変異株などの影響から新規感染者数は減らない中での調査
- 第18回：ワクチン接種のペースが鈍化、変異株への感染も引き続き多い中での調査
- 第19回：国民の約3分の1がワクチン接種を完了し、1日当たり新規感染者数が3万人台まで減った中での調査
- 第20回：アメリカ成人約半数がワクチン接種を2回とも完了し、1日当たり感染者数が1万人前に減った中での調査
- 第21回：国内新規感染の約6割をデルタ変異株が占めるなど、デルタ変異株が急速に拡がりはじめる中での調査



【日本】

- 第1回：緊急事態宣言が対象地域を全国に拡大（4/16）して1週間が経過した中での実施
- 第2回：ゴールデンウィーク / ステイホーム週間が明け、感染者数が3月末以降初めて100人を下回った中で実施
- 第3回：全国で緊急事態宣言が解除された数日後の調査
- 第4回：全国で緊急事態宣言が解除されてから2週間後。東京アラートが解除されるまでのタイミングで実施
- 第5回：都内ホストクラブでのクラスター発生を中心に、感染者が再び増加してきた中での実施
- 第6回：東京都を中心に感染者数が大幅に増加し、都外への外出自粛が要請された中での実施
- 第7回：国内の感染者数が1,000人を超え、各地で感染が広がる中迎えたお盆・夏季休暇中での実施
- 第8回：感染者数は減少傾向にあり、9月14日に自民党総裁選が行われた直後のタイミングでの実施
- 第9回：感染者数が安定して推移、「GoToトラベル」キャンペーンの東京発着分追加、「GoToEat」キャンペーン開始など経済活性化政策が強化される中で実施
- 第10回：国内の1日あたり新規感染者数2,000人を超え、過去最高を更新する中で実施
- 第11回：年明け一気に感染者数が増え、2度目の緊急事態宣言が発令。変異株の感染も報告される中での実施
- 第12回：4都県では引き続き緊急事態宣言下（調査終了翌日3/21に解除）の中で実施
- 第13回：まん延防止等重点処置や緊急事態宣言が適応・発令される中で実施
- 第14回：新規感染者数が高止まりし、GWから延長している緊急事態宣言の再延長が検討される中での調査
- 第15回：国内の1日当たり新規感染者数が2,000人前後まで落ち着き、緊急事態宣言からまん延防止等重点措置へ移行した中での調査
- 第16回：東京オリンピックが開催される中、国内の1日当たりの新規感染者数が1万人を突破し、東京・沖縄で緊急事態宣言の延長が決定した中での調査

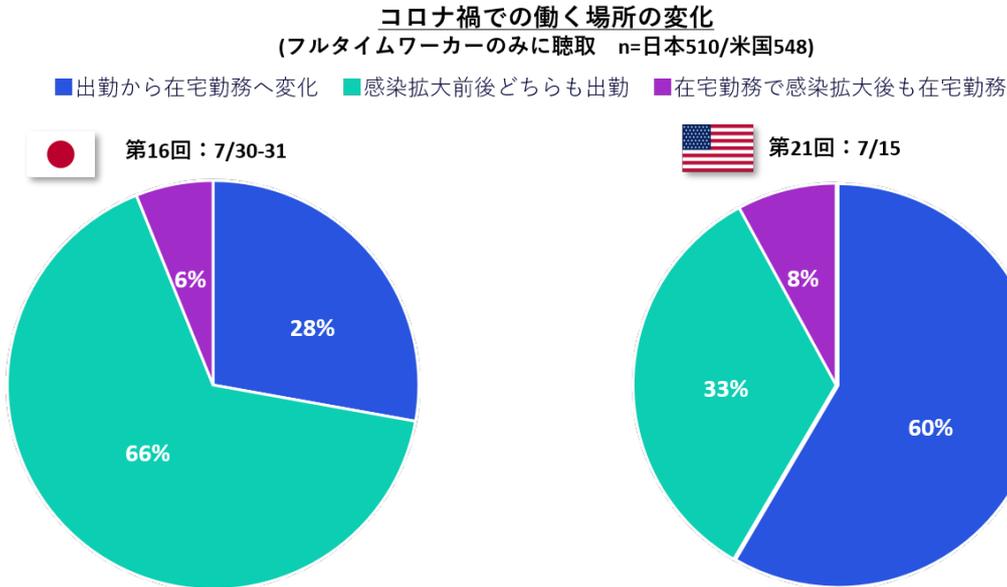


<参考：その他の主なファインディングス>

(ア) 働く場所の変化

- ・ コロナを経て「出勤から在宅勤務へ変化した」人は日本で28%、米国では60%と在宅勤務の状況に差がみられた。
- ・ 日本では「感染拡大前後どちらも出勤していた」が66%となり、出勤している人が多数派。

(図表6) 働く場所の変化

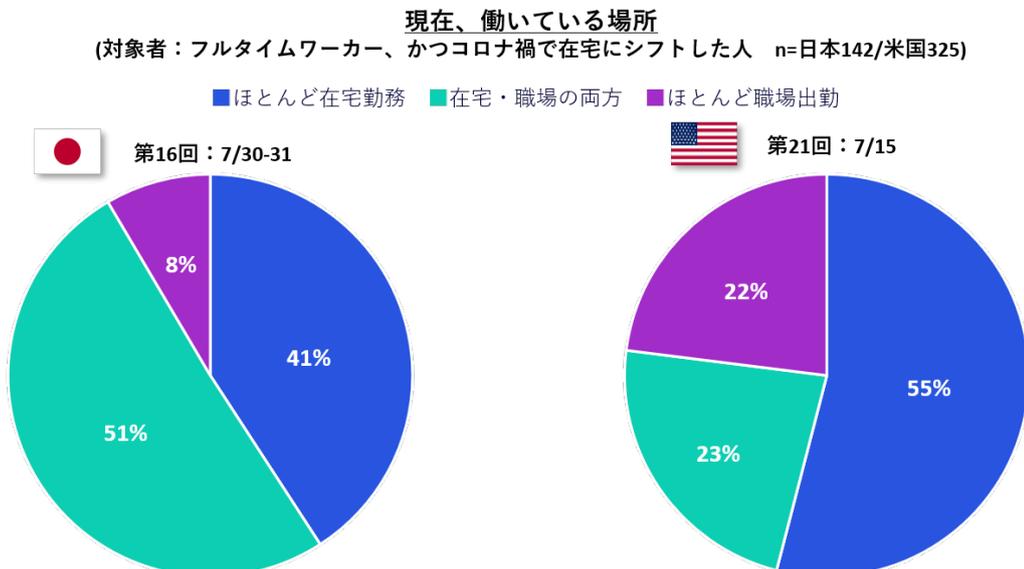


質問：昨年、新型コロナウイルスの感染拡大によって、あなたの働く場所に変化はありましたか？

(イ) 在宅勤務者の主に働いている場所

- ・ 在宅勤務者の働いている場所を日米で比較すると、日本は「在宅・職場の両方」が51%と最も高く、米国は「ほとんど在宅勤務」が55%と最も高い。

(図表7) 在宅勤務者の主に働いている場所

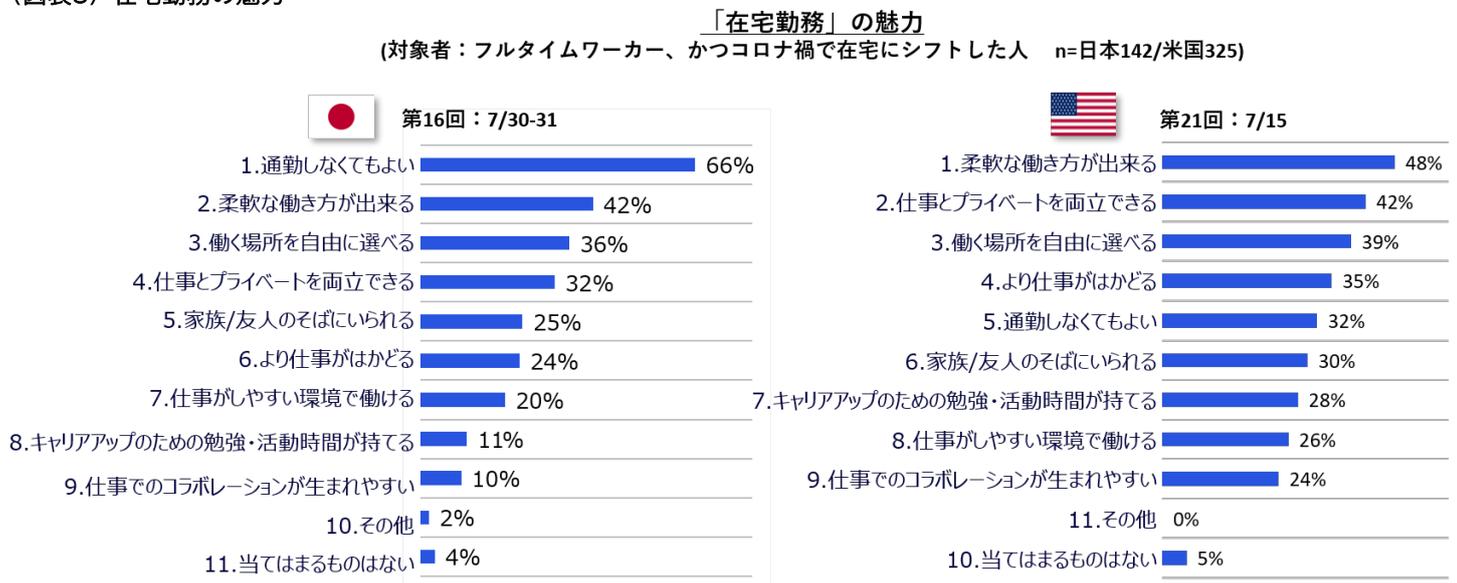


質問：現在、あなたが働いている場所について、以下のうち最も当てはまるものをお選びください（在宅勤務者のみ回答）

(ウ) 在宅勤務の魅力

- ・ 日本では「在宅勤務」の魅力として「通勤がない」が66%と突出して高い。
- ・ 「柔軟な働き方ができる」は米国では5割近い人が魅力とし、日本でも約4割が魅力と回答。
- ・ 仕事とプライベートの両立は、日本では32%程度とアメリカの42%に比べて10ポイント程度下回る。

(図表8) 在宅勤務の魅力

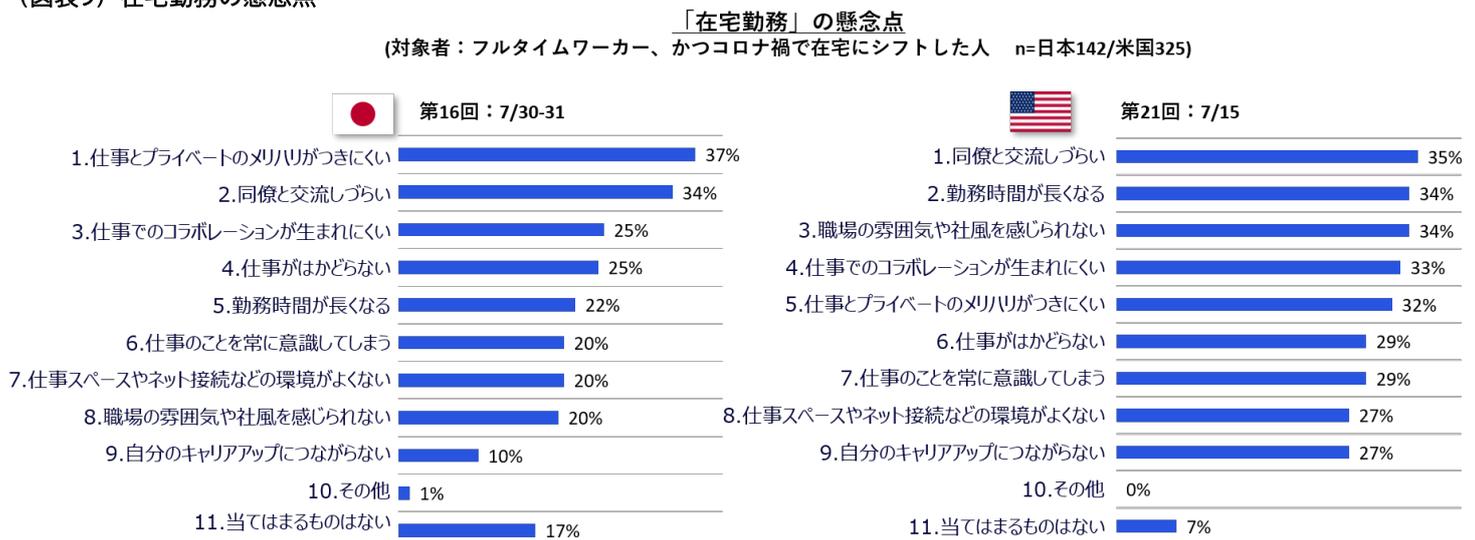


質問：「在宅勤務」について、あなたが価値を感じる・魅力だと思うことを全てお選びください。（在宅勤務者のみ回答）

(エ) 在宅勤務の懸念点

- ・ 日本では在宅勤務の懸念点として「仕事とプライベートのメリハリがつきにくい」が37%で最も高く、ついで「同僚と交流がしづらい」で34%。
- ・ 米国は、「同僚と交流しづらい」35%が最も高く、ついで「勤務時間が長くなる」「職場の雰囲気を感じられない」がそれぞれ34%となった。

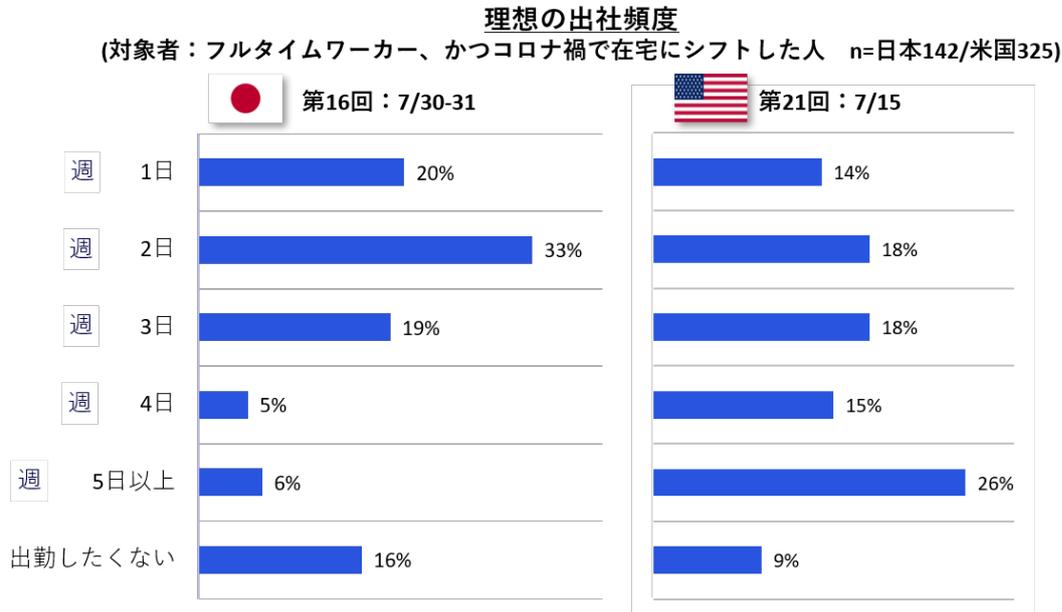
(図表9) 在宅勤務の懸念点



質問：「在宅勤務」について、あなたが懸念することを全てお選びください。（在宅勤務者のみ回答）

(オ) 理想の出勤頻度

- ・ 在宅勤務者が考える理想の出勤頻度をみると、日本では「週2日」の出勤が33%と最も高い。
- ・ 米国は「週5日以上」の出勤が理想とする人が26%と最も多く、日本では6%となった。日本よりも米国のほうが出勤を希望する割合が全体的に高い結果となっている。

(図表10) 理想の出勤頻度

質問：会社の方針に関わらず、理想としては週にどれくらい出勤したいですか？（在宅勤務者のみ回答）

以上

【リリースに関する問い合わせ先】

株式会社電通 広報局 広報部

松島、曲山 TEL：03-6216-8041

Email：koho@dentsu.co.jp